

かほく ワークシート

心温まる記事贈り物に

東北芸工大
新聞協会企画
スクラップ帳制作

切り抜いた新聞記事や広告に、写真やメッセージを添えて「ハッピースクラップ帳」を作るワークショップが26日、山形市の東北芸術工科大で開かれた。学生24人が心温まる記事、興味ある記事を探し出し、思い思いの作品に仕上げた。

ハッピースクラップ帳は、若年層に新聞の魅力を伝えようと日本新聞協会が本年度から取り組む企画でPRイベント第一弾。グラフィックデザイン学科の中山ダイスケ教授らが講師を務めた。学生らは、A3判

でカラフルなデザインの台紙やデコレーション用シールがセットになった専用キットを使い、記事を貼り付けたたり、色を塗ったりした。新聞協会は家族や友人への贈り物として、スクラップ帳の活用を提案する。2年の寺上菜々美さん(19)は「宮城にいる母への手紙のイメージで、山形に関する記事をたくさん入れてみました」と話した。

専用キットはアートディレクターの森本千絵さんがデザインし、協会のホームページからダウンロードで

きる。制作したスクラップ帳のカラーコピー、写真を提出した先着1000人に記念品を贈呈している。連絡先は新聞協会03(3591)4637。



学生が自由な発想で作品を作り上げたワークショップ

①「ハッピースクラップ帳」とは、どのようなものですか。

②あなたも、ハッピースクラップ帳を作ってみましょう。

(2015年5月27日河北新報朝刊)

年 組 名 前

(小学生以上/家庭学習)